キルギス共和国日本語教師会会報

第 56 号 2020 年 3 月 3 日発行

Вестник Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики

№ 56 от 3.03.2020 г.

キルギス日本語教師会会報の読者の皆様！
新春のお慶びを申し上げます。
教師会 21 年目もよろしくお願いいたします。

「キルギス共和国日本語教師会創立 20 周年記念レセプション」の開催

駐キルギス特命全権大使　前田　茂樹

キルギス共和国日本語教師会の創立 20 周年を記念し，昨年末，公邸にて「キルギス共和国日本語教師会創立 20 周年記念レセプション」を開催致しました。本レセプションは，日本語教師会の創立からこれまでの歩みを振り返るとともに，今後の日本語教育の発展のために，キルギス政府や民間企業，日本留学経験者や日本語教師の先生方など，各界で活躍される方々をお招きし，今後の教師会の活動を支えるネットワーク作りの一助になればという願いから，企画に至ったものです。

レセプションでは，私の挨拶に続き，オムロフ教育科学省次官，イシライロワ・キルギス共和国日本語教師会会長による来賓からのスピーチを頂き，同会長とヴォロビヨワ先生による教師会の歩みとその活動に関するプレゼンテーションが行われました。教師会の 20 年の道のりは決して平坦ではありませんでしたが，先生方のご尽力に加え，関係機関や様々な方のお力添えにより，確実に実績を積み重ね, 2015 年には外務大臣表彰を授与されるに至りました。これまでの教師会の歩みは，キルギスにおける日本語教育の発展の歴史そのものです。私は，多くの方々のご貢献に感謝するとともに，これからも教師会の皆様と共に，当地における日本語教育の発展や，日本語を使って働く環境の整備に力を尽くしていきたい，その思いを新たにしたところであります。

常日頃，私はキルギスの人々の日本に対する愛情や熱意に触れながら，その思いに敬意と感謝の念を抱いております。キルギスの方々の『日本愛』を支え，その思いに応えておられるのが，日本語教育に携わる先生方です。

これまでの皆様お一人お一人のご活躍と，20 年間にわたるキルギス共和国日本語教師会のご活動に心からの敬意を表しますとともに, 二十歳の成人を迎えられた貴教師会の今後益々のご発展をここにお祈り致します。

駐キルギス日本国大使主催『キルギス日本語教師会創立 20 周年祝賀会』

キルギス共和国日本語教師会　会長　イシライロワ・ジルディズ
（キルギス国立大学付属日本学院　講師）

2019 年 12 月 26 日、前田茂樹駐キルギス日本国大使にキルギス共和国日本語教師会創立 20 周年レセプションを開催していただきました。

教育科学省や外務省などキルギス共和国政府機関の方々、大学ほか教育機関の方々、また、元駐日キルギス大使のモルドガジエフ氏やキルギスソフトウェア開発協会会長のアバキロフ氏はじめ教師会活動を支援してくださっている方々や教師会活動に関心を寄せてくださっている方々が大勢出席されました。

日本語弁論大会に出場した学生たちも招いていただきました。学生たちは、弁論大会参加を通じて大学以外の場でも日本語学習の成果を披露できたことと、新しい仲間と出会える機会を与えてくれたことに対して教師会への感謝の言葉を聞かせてくれました。

レセプションは、前田大使の祝辞で始まり、キルギス共和国教育科学副大臣オムロフ氏からもご挨拶いただきました。私は、教師会会長として、創立 20 周年を祝う機会を設けてくださった大使に深く感謝申し上げるとともに、出席くださった皆様にもお礼の言葉を述べさせていただきました。

レセプション第 1 部の公式プログラムの中で出席された方々全員にキルギス共和国日本語教師会の 20 年間の歩みと現在の活動を紹介するプレゼンテーションを行いました。また、教師会会員の研究論文掲載誌や開発した教材などの展示コーナーも用意していただきました。

プレゼンテーションではキルギス共和国日本語教師会のこれからの活動目標として、「教師養成」と「教員待遇の改善」を挙げましたが、レセプション第 2 部の交流の場で出席者の多くから賛同意見をいただき、さらに前進するための大きな力が湧いてきました。

私は、キルギス共和国日本語教師会創立 20 周年という節目の年に会長を務めることになりました。20 周年記念レセプションのような重要なイベントに参加できて、とても名誉に思っています。プレゼンテーションや展示コーナーなど、準備と当日の担当ほか、積極的に参加してくれた教師会の同僚と学生たちに感謝したいと思います。何よりも、駐キルギス日本国特命全権大使の前田茂樹様と在キルギス日本国大使館スタッフの皆様に対して、キルギス共和国日本語教師会へのご支援に教師会を代表し心より感謝申し上げます。

皆様、これからもキルギス共和国日本語教師会をよろしくお願いいたします。

祝辞～教師会創立 20 周年に当たって～

モルドガジエフ・リスベク
元駐日キルギス共和国特命全権大使
キルギス共和国日本語教師会名誉顧問

キルギス共和国日本語教師会の皆様、創立 20 周年おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

もうかなり昔のことになりますが、キルギスがまだソ連邦の一共和国であった 1989 年にビシケク市で夜間の私立日本語コースが開設された当時を思い出します。コースで教鞭を取られたのは、日本研究の“長老”お二人、イサク・ミハイロヴィッチ・アクセンロード先生とアレクサンドル・ペトロヴィッチ・パク先生でした。当時この国では日本語の教材も参考書も手に入らなかったので、日本語習得を渇望していた私たち受講生は先生が黒板に書いていかれることを一つも漏らすまいと、すべてノートに書き写しておりました。また、キルギスに日本語ネイティブがいない時代だったので、受講生どうしが互いに日本語で会話練習したものです。私は 1990 年代初めにビシケク市第一中等学校で日本語の指導をしましたが、そこでも同じような状況でした。あれから 30 年近い時を経た今、私はいい意味で日本語学習者や日本語の先生をうらやましく思います。それは、日本留学等を含めて、日本語学習者が以前とは比べものにならないほど勉学の機会に恵まれているからです。

その後、キルギスが独立した 1991 年、キルギスは最初の日本人である伊藤広宣先生を迎え、キルギス国立民族大学（現キルギス国立総合大学）にキルギス初の東洋学部を開設しました。伊藤先生はその後日本から日本語の教師を招いて、ビシケク人文大学（現ビシケク国立大学）に東洋国際関係学部を開設する手助けをされました。1995 年にはキルギス・日本センターが設立され、この国でも新しい形の質の高い日本語教育が始まりました。

ご存知のように、キルギスは、青年の日本語学習者数では中央アジアで一番という成果をあげています。すべては今まで尽力されてきた日本語の先生方のおかげです。キルギス共和国日本語教師会は、キルギス国内はもちろん中央アジアでも積極的に活動していることを誇りに思っております。記憶に新しいところですが、毎年各国持ち回りで開催されている中央アジア弁論大会が、担当国として予定されていた国が事情で大会を開催できないことがわかると、キルギスの日本語教師会は自ら積極的に開催担当を引き受け、中央アジア日本語弁論大会は中断することなくビシケクで開催されたことは、その一例です。

私は、在キルギス日本国大使館には従来通りあらゆる支援を引き続きお願いしたいと思っております。また同様に、“KAIZEN”活動に取り組んでいるキルギス日本人材開発センターには、教師会との友好的な協力関係を期待しています。

最後になりますが、キルギス共和国日本語教師会を代表する方々が、その重要な使命を果たされるよう、また将来大きな成功を収められるよう祈念するものです。キルギスと日本の友好の懸け橋が堅固なものとなってきたのは、ひとえに教師会の先生方のたゆまぬ活動のおかげと心より感謝申し上げます。

Поздравление с 20-летием ассоциации экс-Чрезвычайного и Полномочного Посла Кыргызской Республики в Японии, Почетного советника Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики Рысбека Молдогазиева

Поздравляю всех членов Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики с 20-летним юбилеем!

Сегодня вспоминаю, как в далеком 1989 году, когда Кыргызстан еще был частью СССР, в Бишкеке открылись частные вечерние курсы японского языка. Занятия вели два "аксакала" японоведения Исаак Михайлович Аксенрод и Александр Петрович Пак. В те годы в нашей стране не было в наличии учебных материалов по японскому языку. Поэтому мы тщательно переписывали всё с учебной доски в классе и пытались практиковать японскую разговорную речь друг с другом, так как в Кыргызстане не было носителей языка. В подобной ситуации находились и ученики средней школы №1 города Бишкека, в которой я помогал преподавать японский язык в начале 1990-х. Теперь, спустя годы, я по-хорошему завидую студентам и преподавателям, у которых есть больше возможностей для изучения японского языка, включая образовательные туры в Японию.

Первым японцем, прибывшим в 1991 году в суверенный Кыргызстан, и стоявшим у истоков создания самого первого факультета востоковедения в Кыргызстане в Кыргызском государственном национальном университете является Хиронори Ито-сэнсэй. Позже, пригласив из Японии других преподавателей, он помог создать аналогичный факультет в Бишкекском гуманитарном университете. С учреждением в 1995 году Кыргызско-Японского центра человеческого развития уровень преподавания японского языка получил в нашей стране новый качественный толчок.

Как известно, Кыргызстан занимает лидирующее положение в Центральной Азии по численности молодежи, изучающей японский язык, в соотношении с численностью населения страны. Безусловно, заслуга в этом принадлежит преподавателям японского языка. С гордостью хочу отметить, что Ассоциация преподавателей японского языка Кыргызской Республики проявляет активность не только в стране, но и на региональном уровне. Наглядным примером тому послужила инициатива ассоциации провести Центральноазиатский конкурс ораторского искусства по японскому языку в Кыргызстане, когда одна из стран региона не смогла этого сделать согласно очередности.

Очень надеюсь на то, что Посольство Японии продолжит всемерную поддержку ассоциации. Также надеюсь на то, что Кыргызско-Японский центр человеческого развития, в котором сейчас идет процесс усовершенствования деятельности "кайдзен", будет гармонично сотрудничать с ассоциацией.

В завершение хочу пожелать представителям ассоциации дальнейших успехов в очень важной миссии. Благодаря вашим усилиям укрепляется мост дружбы между Кыргызстаном и Японией.

教師会創立 20 周年記念レセプション『展示コーナー』
～教師会の活動と会員の研究成果紹介～

ジュヌシャリエワ・アセーリ

KAJL 紀要『キルギス日本語教育研究』編集委員長

2018 年 12 月 26 日、前田茂樹キルギス駐箚日本国特命全権大使がキルギス共和国日本語教師会創立 20 周年記念祝賀会を開催してくださいました。教師会は、展示コーナーを用意していただき、今まで発行した会報から選りすぐった号を十数点、第 3 号までの紀要『キルギス日本語教育研究』、会員の論文が掲載された大学紀要や各種学術誌、また、会員それぞれが今までの研究成果をまとめたポートフォリオや開発教材などを展示し、教師会のこれまでの活動について出席者の皆さんに紹介することができました。来賓の方々にも、教師会活動の歴史や教師会会員によるキルギスの日本語教育研究の成果を知っていただけたと思います。

教師会は 2000 年から「会報」を発行していますが、2019 年末現在 55 号になりました。会報は、会員相互の情報交換の場であるだけでなく、キルギス共和国日本語教師会の取り組みと成果を国内外に向けて発信する広報誌です。会報は、日本語教育事情だけでなく、キルギスを世界に紹介する役割も果たしていると言えます。

教師会の紀要『キルギス日本語教育研究』は、キルギスのみならず、中央アジア地域における日本学・日本語教育研究の成果を公開し研究者相互の情報交換を行うために機能しています。掲載された論文と実践報告は日本の学術論文データベース CiNii Articles（https://ci.nii.ac.jp/）でも検索、閲覧することができます。

会員のポートフォリオには、これまで発表した学術論文や開発に携わった教材リストが収録されていて、創立以来 20 年にわたる教師会の活動や会員の教育・研究活動の貴重な記録となっています。前田大使も大いに関心を寄せてくださっていました。教師会では、これまでの教師会活動を電子データとしてまとめ、できれば日本語とロシア語の２言語でデータベース化したいと考えています。

当日は何人もの方に教師会のキルギス日本語教育への貢献に対して励ましと労いのことばをかけていただきました。教師会が用意した資料を手に取って興味深げに読んでくださったり、会員の説明に熱心に耳を傾けてくださったり、大勢の方々に教師会の活動に関心を持っていただけて、このような機会を提供してくださった前田大使に心から感謝申し上げます。

新しい年を迎えました。会員一同、今年も協力し合いながらキルギスの日本語教育発展に力を注いでいきたいと思っています。

学生からの感謝のことば

① 素晴らしいひとときに感謝！

キルギス国立大学付属日本学院　４年
アブディルダエワ・アイガニシ

私はキルギス国立大学付属日本学院 で日本語を勉強しています。日本の文化と経済に興味があります。昨年は、日本語弁論大会に出場しました。キルギス共和国日本語教師会は毎年、日本語弁論大会が開催されています。この大会に参加することによって私たち学生は新しい知識や経験を得ることができます。

2019 年 12 月 26 日、日本語教師会創立 20 周年を記念する夕食会が日本国大使公邸において開催されました。前田大使、モルドガジエフ元駐日キルギス大使、そしてキルギス教育大臣など、来賓の方々も大勢出席されました。また、日本語弁論大会の出場経験者も招待され、私もその 一人でした。

夕食会でのひとときは私にとってとても有意義で大切な時間でした。雰囲気、食事、出席者たち、存在する全てが最高に思えました。私は前田大使はじめ 多くの人々と交流することができました。とても素晴らしいひとときでした。

日本語教師会は 20 年前に設立されました。日本語教師会の目的は中央アジアとキルギスにおける外国語としての日本語教育を発展させることにあります。私は夕食会に出席して様々な人と交流できた経験が自分の将来にとって大きな刺激となったと思います。

最後になりますが、日本語教師会の先生方に感謝したいと思います。教師会の一層の発展を心から願っています。

② 先生の仕事に感謝しています

キルギス国立大学付属日本学院　３年
アスケルベコワ・マリアンナ

12 月 26 日、キルギス共和国の本ご教師会創立 20 周年を記念するレセプションに招待されたことは、私にとって大きな名誉でした。私はレセプションに出席して、私たちの国で日本語を勉強することについて多くの有益な情報を得ました。また、様々な興味深い分野の方々と知り合うことができました。そして何よりも、もっともっと勉強して日本語を完璧にマスターしたいという意欲が湧いてきました。日本人の友達や日本語を勉強している仲間をたくさん増やしたいと思いました。

将来もこのようなイベントに何度も参加したいと思います。そのためにも、私は完璧な日本語を身に付けるためしっかり勉強していくつもりです。

私たちの国で日本語を学ぶ人々の数が年々増加していることを嬉しく思います。大学の先生方には特別な感謝の意を表したいと思います。日本語という美しい言語を教える仕事に感謝しています。日本語を学ぶ私たち全員を支援してくれるわが国の教育省にも感謝しています。大使公邸で用意してくださった素晴らしい食事にも感謝しています。

レセプションに招待してくださって、本当にありがとうございました。

ビシケク国立大学の教員とレセプションに招待された学生＆卒業生

第 83 回 JSL 漢字学習研究会と
第二言語習得研究会（JASLA）第 30 回記念大会に参加して

キルギス日本語教師会会報編集委員長
ヴォロビヨワ・ガリーナ

2019 年 12 月に２つの研究会に参加するために日本へ行ってきました。12 月 14 日に第 83 回ＪＳＬ漢字学習研究会が行われました。私は 2005 年から会員であって、以前何回か発表をした研究会です。研究会の代表の濱川祐紀代先生、運営委員会の徳弘康代先生、関麻由美先生、池田幸弘先生、他の会員と再会して嬉しかったです。とても興味深い発表を聞いて感動しました。

第 83 回 JSL 漢字学習研究会のご案内

□ 日程 □

日時 ：2019 年１２月１４日(土) 14:00～16:30

会場 ：アジア文化会館 101 研修室

アクセス：http://www.ahk.or.jp/access/index.html

＊最寄り駅：(都営地下鉄三田線) 千石駅 (A1 出口) より徒歩３分、など

参加費：500 円

参加申込（必須）：２日前（１２月１２日(木) 昼 12:00 までに、研究会 HP より参加申込を行ってください。 → http://jsl-kanji.com/participation/

＊研究会 HP より先着順に受付致します。申込時に問題が生じた場合は、事務局の加申込専用メールアドレス＜sanka@jsl-kanji.com＞まで、ご連絡ください。

□ 発表 □

タイトル：漢字教材の比較調査（４）（仮）

発表者：池田幸弘（法政大学グローバル教育センター）

タイトル：非漢字圏日本語学習者のための字形学習法－漢字導入に焦点を当てた視覚形態的分析と組み合わせコード化－

発表者：Sinousy Eman TAHA（拓殖大学言語教育研究科 博士後期課程）

タイトル：『Essential Kanji for Science and Engineering Student -Vocabulary and Example Sentences - 理工系留学生のための重要漢字 -単語と例文-』の作成

発表者：徳弘康代・西山聖久・LELEITO Emmanuel・服部淳・鷲見幸美（名古屋大学）

私にとって特に面白かったのはエジプトからの大学院生の Sinousy Eman Taha による「非漢字圏日本語学習者のための字形学習法－漢字指導に焦点を当てた視覚形態的分析と組み合わせコード化－」という発表でした。配布資料を見ると私の博士論文からの引用がありました。また Taha さんは私が 1999 年から研究している漢字字体のコート化というテーマにも興味を持って自分なりの漢字のストロークのコード化を開発しました。Taha さんは私の博士論文が彼女の研究で手助けになっていると高く評価してくれて嬉しかったです。研究会が終わってからカフェで他の参加者とお茶を飲みながら漢字教育に関する有意義な話ができて充実した時間を過ごしました。

また 12 月 21～22 日に武蔵野大学 有明キャンパスで開催された第二言語習得研究会(JASLA)第 30 回記念大会に参加しました。その研究会には 2014 年から入っています。本研究大会のテーマは「「学習」の多様化と SLA」でした。私は津田塾大学の関麻由美先生と一緒に参加しました。2018 年 7 月に私たちは 2 人ともその大学で開催された国際シンポジウム Critical Content-Based Instruction (CCBI) でポスター発表をしたので、武蔵野大学がとてもいい思い出でした。

第二言語習得研究会(JASLA)
第30回記念大会のお知らせ

2019年12月21日(土)・22日(日)
会場 ：武蔵野大学有明キャンパス
参加費：学生3,000円 一般4,000円

全体テーマ：「学習」の多様化とSLA

基調講演（１日目）
「個人差、例外、多様性？
－第二言語習得研究における「多様性」の課題と提言－」（仮題）
岩崎典子氏（南山大学）

シンポジウム（２日目）
「多様化の時代に、SLAの研究手法を再考する
－「質」と「量」をつないでひらく、新しい試みを求めて－」（仮題）
石川慎一郎氏（神戸大学）・抱井尚子氏（青山学院大学）
八木真奈美氏（駿河台大学）・小柳かおる氏（上智大学）

◆今回の基調講演は例年と異なり1日目になります。ご注意ください◆

◆◆口頭発表・ポスター発表募集◆◆

詳細はウェブサイトをご覧ください
JASLAホームページ http://jasla.sakura.ne.jp/
応募締め切り：2019年8月10日 必着

◆１日目の懇親会に加え、２日目閉会式後に意見交換会の場として、クロージングパーティーを行います。是非ご参加ください！

主催 第二言語習得研究会 後援（公社）日本語教育学会

21 日に南山大学の岩﨑典子先生は基調講演「例外なのか個人差なのか―第二言語習得研究における多様性の課題と提言―」をしました。

私にとって特に興味深かったのは 22 日に行なわれたシンポジウム「多様化の時代に、SLA の研究手法を再考する ―「質」と「量」をつないでひらく、新しい試みを求めて―」でした。そこで 3 人の講師の講演を聞くことができました。それは駿河台大学の八木真奈美先生による講演「なぜ「言葉」や「行為」が意味をもつのか―第二言語習得研究における質的研究法の意義と課題―」と青山学院大学の抱井尚子先生の講演「混合研究法―量と質の境界を越えて―」と神戸大学の石川慎一郎先生の講演「習得研究の資料としての学習者コーパスの可能性と課題―規模の制約と一般化の制約をめぐって―」でした。

日本滞在中有意義な研究会に参加して、重要な知識を得て、研究者と交流して、まるで新鮮な空気を吸うことができたような感じです。

最高の冬休み

ビシケク国立大学４年　アットクロワ・メーリバン

私は現在、茨城大学に留学しています。日本の大学はキルギスの大学より冬休みが非常に短くて、「休む時間が本当にないな」と思っていました。しかし、その１週間を想像していたより楽しく過ごせて、人生最高の冬休みになりました。

11 月の終わり頃、キルギスで知り合った友人の楓さんから「お正月に金沢に遊びに来ませんか？」という連絡が来ました。私は楓さんにずっと会いたかったので、お正月に金沢市に行くことにしました。

12 月 29 日に東京駅から金沢駅まで新幹線で行きました。新幹線に乗るのは初めてだったので、わくわくしていました。金沢駅で楓さんが私を待っていました。楓さんと日本で再会できて、まるで夢のようでした。次の日に楓さんの家で餅つきがありました。そのため、楓さんの家族の全員が集まりました。餅をつくことは大変ですが、みんなで餅つきをやるのは楽しかったです。餅つきの後、みんな疲れたので、温泉に行くことにしました。日本の餅つきも温泉も初体験できて、嬉しかったです。

12 月 31 日に楓さんと楓さんの２人の友達と一緒に世界遺産の白川郷を観光しに行きました。雪が降っていたため、寒かったのですが、行けて本当に良かったです。

楓さんの家族ではそばよりうどんの方が好まれているので、大晦日にそばではなくて、年越しうどんを食べました。おせち料理も食べてみました。食べ終わってから、家族のみんなでゆっくりしながら、紅白歌合戦というテレビ番組を見ました。大晦日の夜から元日の朝にかけてお寺や神社に初詣に行きました。日本のお正月は思ったより静かでしたが、楓さんと一緒に過ごせて幸せでした。楓さんの家族のみんなも歓迎が温かくて、感謝の気持ちでいっぱいです。

１月２日の朝、新幹線に乗って、東京に行きました。その日に新年会に招待してくださった北嶋先生と再会できました。去年の夏、北嶋先生はキルギスにいらっしゃって研究大会で発表をしてくださいました。会場はビシケク国立大学でした。北嶋先生が紹介してくださったゲームを使った日本語学習アプローチはとても気に入りました。

先生の新年会は想像していたよりずっと楽しかったです。先生の家族や親しい友達と知り合うことができて光栄でした。北嶋先生は非常に優しくて、温かな方で「私の家に泊まってください」とおっしゃってくださいました。次の日に先生と一緒においしい朝ご飯を食べました。北嶋先生とたくさん話せて、本当に嬉しかったです。朝ご飯を食べた後、先生は駅まで見送ってくださいました。

大変お世話になって、心から感謝しております。またお会いできたら、幸いです。

『キルギス日本語教育研究』第５号原稿募集

◆刊行の目的
・キルギス共和国日本語教師会の会員等の研究成果・実践報告の発表に資することを目的とする

◆紀要名称
・紀要名称を『キルギス日本語教育研究』とする

◆投稿内容・種類
・日本語教育学、日本学、授業実践・教育事情報告、通訳・翻訳、その関連分野のもので、未公刊のもの（ただし、学会等での口頭発表はこの限りではない）
・同じ内容の原稿を他誌に投稿している場合（二重投稿）は不採用とする
・「研究論文」「教育事情・実践報告」「研究ノート」の３部門を設ける
※「研究論文」は編集委員が任命する３名により査読を経て、掲載合否の決定をする

◆投稿資格
・キルギス共和国日本語教師会会員
・キルギス共和国日本語教師会会員との共同執筆者
・キルギスの大学に在籍する大学院生、学部卒業生、学部生
※学部卒業生、学部生については、指導教員またはそれに準ずる者との共著に限る
・キルギス共和国日本語教師会会員によって構成される編集委員会が特に認めた者

◆編集・発行形態
・教師会内に紀要編集委員会を設け、３名の編集委員で構成する
・年１回刊行（PDF 形式、冊子体で発行）

◆原稿の使用言語
・日本語・ロシア語を原則とし、その他の言語については，紀要編集委員会の判断による
※ただし，引用・用例の言語は原則として制限しない

◆投稿の方法
・投稿方法は、すべて E-mail での投稿とする　提出先：紀要編集委員会 kyoushikaikyrgyz.ed@gmail.com

◆投稿できる原稿数等
・投稿できる原稿は、共同執筆を含め原則として１号につき２編以内とする
※ただし、編集上の都合により１編に制限されることがある

◆投稿締め切り
・締め切り日は次の通りとする　2020 年 10 月 30 日 17 時（キルギス時間）必着
・提出後の差し替えは一切認めない
・締め切り日を過ぎて到着した原稿は，次号投稿分として受理する
※掲載時期を勘案のうえ，投稿を取り下げる場合は事務局まで連絡すること
・投稿前に必ず執筆要領に沿っているかを確認すること
（https://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/紀要-キルギス日本語教育研究/投稿ガイド-執筆要領/）

◆採否の決定
・投稿された原稿は，学会誌委員会による審査を行い，採否を決定する
・採否の結果及びその理由については、締め切り日から２か月以内に E メールにて投稿者に通知する

◆査読結果の取扱い
・紀要編集委員会からの査読結果及びコメントその他の通知内容は、当該論文の執筆者に対する伝達を除き、非公開とする

◆論文の公開
・本教師会ウェブサイト内の「教師会紀要　キルギス日本語教育研究」に、全文を公開する

◆著作権
・『キルギス日本語教育研究』に投稿された論文の著作権は、キルギス共和国日本語教師会に帰属する
※原稿の他の出版物への転載等は、キルギス共和国日本語教師会の許可を得たうえで行うこと

キルギス共和国日本語教師会紀要編集委員会
（2019 年 3 月策定）

※第５号発行は 2021 年１月発行予定です。

2019 年第 2 回日本語能力試験(JLPT)

2019 年 12 月 1 日（日）にビシケク国立大学で日本語能力試験 (JLPT) が実施されました。JLPT は、キルギス共和国日本語教師会と在キルギス日本国大使館が実施しました。今回も、遠隔地からの応募者がいました。205 名の出願者のうち 158 名が試験に参加しました。

N	出願者数	受験者数	欠席者数
N1	6	5	1
N2	14	12	2
N3	45	36	9
N4	65	40	25
N5	75	65	10
合計	205	158	47

キルギス共和国日本語教師会会報第 56 号 2020 年 3 月 3 日発行
キルギス共和国日本語教師会事務局 E-mail: kajlt.jimukyoku@gmail.com
賛助会事務局 E-mail: kyoshikai.sanjokai.jimukyoku@gmail.com
https://www.evernote.com/pub/tm0y/kyrgyz_vestnik
http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com
https://ja.wikipedia.org/wiki/キルギス共和国日本語教師会
https://www.facebook.com/JLteachers.association.KR?ref=aymt_homepage_panel
http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/紀要-キルギス日本語教育研究/バックナンバー/
編集担当：キルギス共和国日本語教師会広報委員会会報編集部 ヴォロビヨワ・ガリーナ、ロディナ・ガリーナ、ミヘルチッチ・ヤネズ、ザイートワ・シャヒデム
Вестник Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики № 56 от 3.03.2020 г.
Редколлегия: Галина Воробьева, Галина Родина, Янез Михельчич, Шахидэм Заитова